

【市内中学校の部 大賞】

海と生きる

鳥羽市立鳥羽東中学校 二年

濱口 あかり

二年連続で海苔が悪かったの
で島から活気がなくなった

男たちは黙々とロープを片付け
女たちは仰向いて海苔の袋を洗っていた

祖父の時代はとても高価だったというが
今、海苔は海岸に掘った穴に埋めてい
るまるで墓地に埋められているようだ
砂の下、深いところで

父たちは沖で海苔を摘んできては
海苔を海岸に捨て続けた

摘み船いっぱいの丹精こめて育てた海苔を
いくつもいくつもの袋に詰めて運び
無表情に処分していった

毎年四月の初めまで海苔の仕事があるのに
今年は二月に終わってしまった

そして来シーズン、我が家は海苔を辞める
祖母も高齢だし、もう海苔では
食べていけないのだという

夏には父も母も海に潜っていた
冬になったら父は
刺し網やたこつぼ漁をする算段をしている

私たちは島に住んで、海と共に生きていく
この島とこの海が好きだから